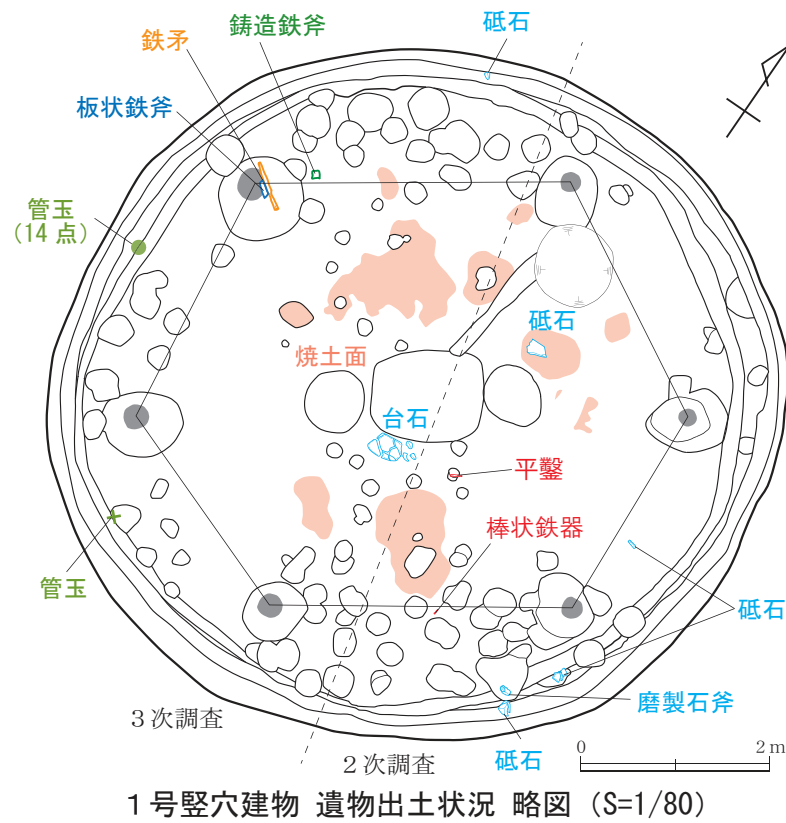


## ●1号竪穴建物について

- ◆直径約7.5mの円形の建物で、6本柱。
- ◆床面には約90個の小さな穴が確認できた。
- ◆床面には焼土面が見られる。
- ◆柱の近くから鉄矛と板状鉄斧が出土し、そこから50cmほど離れたところでは鑄造鉄斧が出土した。
- ◆そのほか平盤ひらのみ、ヤリガンナなどの鉄器、管玉（18点。うち14点はまとまって出土）やガラス玉2点といった装身具、作業台と思われる石、弥生土器などが出土。



1号竪穴建物 遺物出土状況 略図 (S=1/80)



1号竪穴建物から出土した鉄器

### 鉄矛

- ◆弥生時代中期
- ◆舶載品（朝鮮半島）
- ◆全長54.3cm。重さ595g。
- ◆横倒しになって出土したが、もとは柱の近くに突き立てていたと思われる。

### 板状鉄斧

- ◆弥生時代中期
- ◆舶載品（朝鮮半島）
- ◆全長27.5cm。重さ735g。
- ◆刃を上にして柱の根元に突き刺した状態で出土。

### 鑄造鉄斧

- ◆弥生時代中期
- ◆舶載品（中国）
- ◆全長11.0cm。重さ555g
- ◆床面から約1cmの高さで出土。取上げると下から炭化材片が出土。



1号竪穴建物 鉄器出土状況（北東から）

## ●1号竪穴建物出土鉄器について

- ◆国内で初めて竪穴建物で舶載鉄器3種類（鉄矛・板状鉄斧・鑄造鉄斧）が完全な形で出土した。そのうちの鉄矛は弥生時代のものとしては国内最長で、板状鉄斧は国内最大級。
- ◆朝鮮半島や中国から貴重な鉄器を受給するための交流ルートを持っていたと考えられる。
- ◆当時では貴重な鉄器が焼失住居の中に残されていたことから、失火ではなく、祭祀をする中で鉄器を使い建物を燃やした可能性がある。
- ◆弥生時代の鉄器の流通や祭祀を考えるうえで重要な資料。

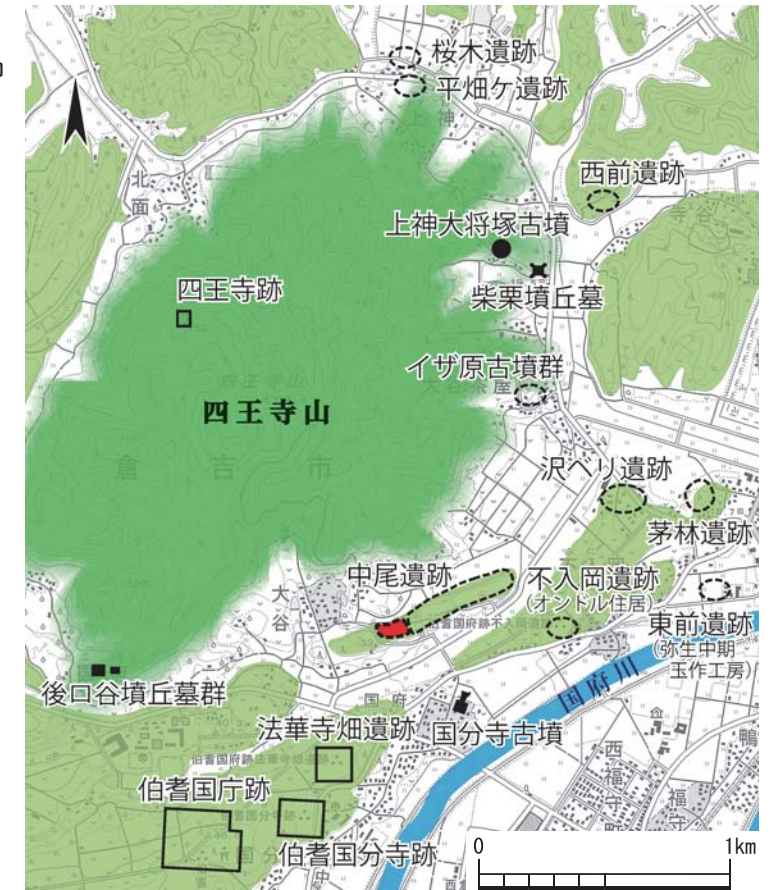
# 令和2年度 中尾遺跡第3次 発掘調査 現地説明会

令和2年11月14日（土）  
倉吉市教育委員会 文化財課

- 調査場所 倉吉市大谷字中尾
- 調査期間 令和元年8月1日～現在調査中  
(令和3年度まで調査予定)
- 調査契機 大谷工業団地再整備事業
- 調査面積 14,000㎡



中尾遺跡の位置



中尾遺跡と周辺の遺跡

## ●中尾遺跡について

中尾遺跡は、四王寺山南麓の丘陵上に位置する。周辺には沢ベリ遺跡や西前遺跡、東前遺跡などの弥生時代中期の遺跡がある。東前遺跡では中期の玉作工房を確認している。

また中尾遺跡の南約500mの位置には国分寺古墳があり、中国製の銅鏡3枚や、鉄剣、鉄鏃、鉄斧などが出土し、国の重要文化財に指定されている。

丘陵北東部では平成3年度に第1次調査、平成26～28年度に第2次調査を行い、縄文時代の落し穴159基、弥生時代の竪穴建物25棟、掘立柱建物21棟、貯蔵穴13基、後期古墳2基を確認した。

## ●今回の調査について

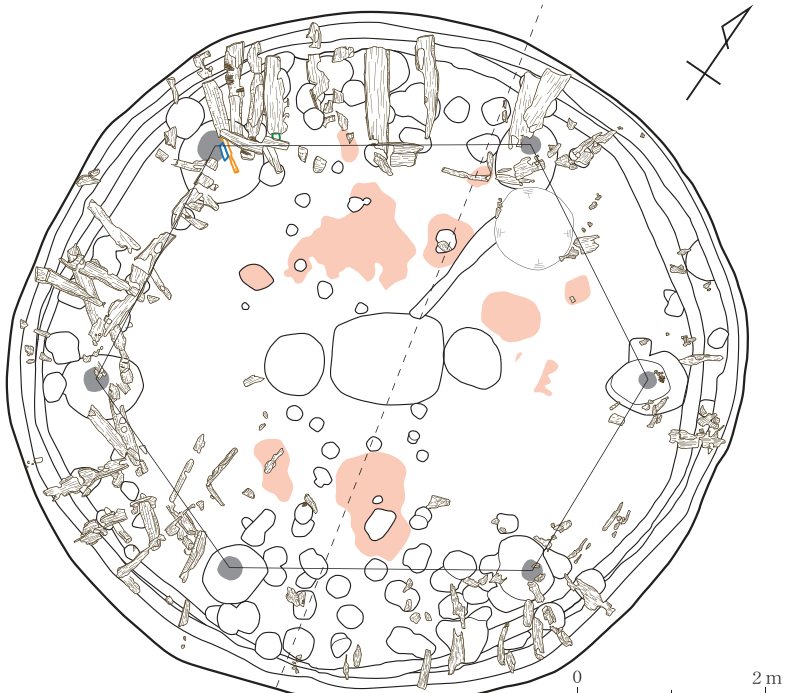
第3次調査では、縄文時代から古墳時代にかけての遺構を確認している（縄文時代の落し穴4基、弥生時代中期の竪穴建物3棟、古墳時代前期の竪穴建物3棟、古墳時代後期の古墳13基など）。

弥生時代中期の焼失した竪穴建物（1号竪穴建物）からは、朝鮮半島や中国から持ち込まれた3種類の鉄器（鉄矛・板状鉄斧・鑄造鉄斧）が出土した。

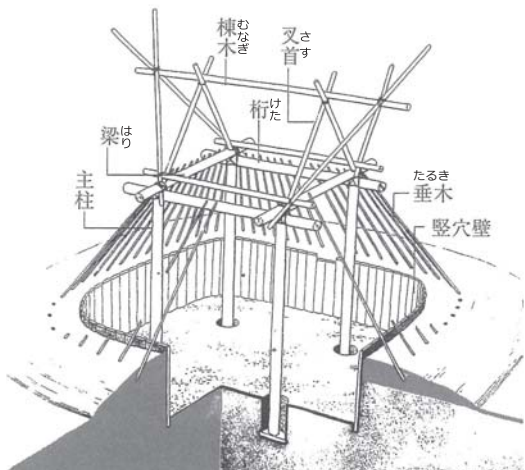
# 中尾遺跡第3次発掘調査 遺構配置図 (S=1/500)



1号竖穴建物 炭化材 出土状況 (北西から)

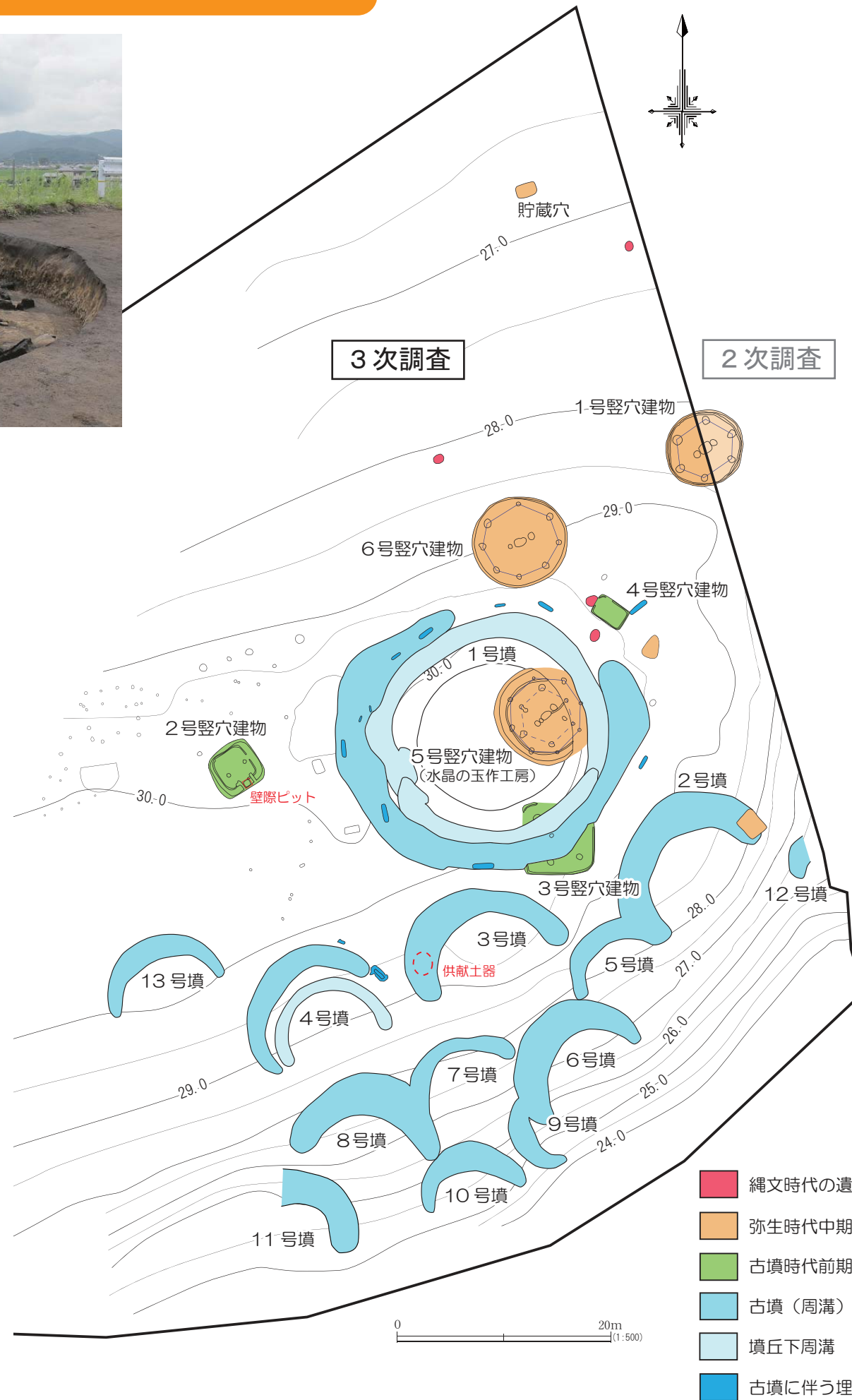


1号竖穴建物 炭化材 出土状況 略図 (S=1/80)



竖穴建物の構造

出典：文化庁監修 2010『発掘調査のてびき 集落遺跡発掘編』



2号竖穴建物 (古墳前期) 壁際ピット 土器出土状況 (北西から)



3号墳 (古墳後期) 供献土器 出土状況 (西から)

## ●まとめ

縄文時代は丘陵北斜面から尾根にかけて狩場として使われ、弥生時代中期や古墳時代前期には尾根上に集落が形成された。弥生時代中期の竖穴建物に祀られたと考えられる鉄器は国外からもたらされた貴重な物で、他地域との交流がうかがえる。そして古墳時代後期になると丘陵南斜面に数多くの古墳が造られた。

このように、古くから人々が集まり、長い時代を通して利用する土地であったことがわかる発掘調査となった。